

箱づくり法研究会事例検討会（対面・オンライン）への事例提供について

※本資料は、箱づくり法研究会で実施されるオンライン事例検討会に事例提供する際のいくつかの注意事項及び事例報告書の記載例を、参考資料として提示するために作成した。

1. 本研究会で事例発表ができるのは、①全国研修会に参加し、修了書もらった者、②本研究会が認めた TA 同席で箱づくり法を実施した者、③本研究会が認めた SV・TA に事前にレポートチェックを受けた者のいずれかとする。
2. 箱づくり法研究会の事例提供に関する誓約書と事例提供に関する同意書が提出されていることを発表の条件とする。
3. 本研修会で実施する事例検討会は、箱づくり法の実施結果を含めて事例の検討を行なうが、基本的に対象者に対する治療・援助プロセスについての検討を行なうことを目的にしており、作業療法以外の治療・援助や箱づくり法以外の評価方法などについても、可能な限り情報として提示するように心掛ける。
4. 事例検討会に事例提供する場合には、箱づくり法の実施及び事例報告書作成について、『箱づくり法研究会』認定 SV・TA から指導を受けることが可能なので、希望する場合には事務局にその旨を申し出る。
5. 3項に記載された事例検討会の目的により、箱づくり法における評点の適確性についての検討時間を可能な限り最小限にするため、事例報告書の作成後に SV 又は TA が評点についてのチェックを行なうことを発表の条件とする。
6. 事例報告書中の箱づくり法について、実施結果のまとめ方及び報告書の作成方法や注意事項等については『作業面接としての箱づくり法－実習ノート第2版－』や以下に示す症例報告フォームを参考にする。
7. 事例検討会には、箱の展開図の描き順、裁断の手順、折り方の手順を示した図等を可能な範囲で報告書に添付して提示する。

症例 A さんの報告書

I. A さんのプロフィール

1. A さんの概略紹介

A さんについての極簡単な紹介と経過、箱づくり法を実施する理由及び本人へのオリエンテーションと反応などを簡単に記載する。

2. 一般情報

- ・性別、年代、診断名、合併症、服薬状況など
- ・現在の生活状況、住居環境、経済状況、家族状況など

II. 成育歴及び現病歴

1. 成育歴

幼少期から小学校、中学校、高等学校、大学校、その後の様子など、時間的経過に沿って得られる限りの情報を記載する。

2. 現病歴

現病歴について時間的な経過にそって得られる限りの情報を記載する。

3. 既往歴

III. 作業療法経過

1. 作業療法経過

作業療法に関する経過について、導入時の経緯や印象的なエピソードあるいは報告者との関係性などを交えながら記載する。

2. 箱づくり法実施のきっかけと目的

作業療法経過や作業療法士との関係性の中で、箱づくり法を実施することになった経緯や目的、オリエンテーションの具体的な内容及び対象者の反応などについて記載する。

IV. 箱づくり法の実施結果

1. 所要時間と箱の採点など サイコロ型・フタなし・開閉 見本利用 有・無

実施日：**年**月**日 被験者：**** 検者：****

総所要時間：**時**分**秒

箱制作時間：**分**秒 (**%)

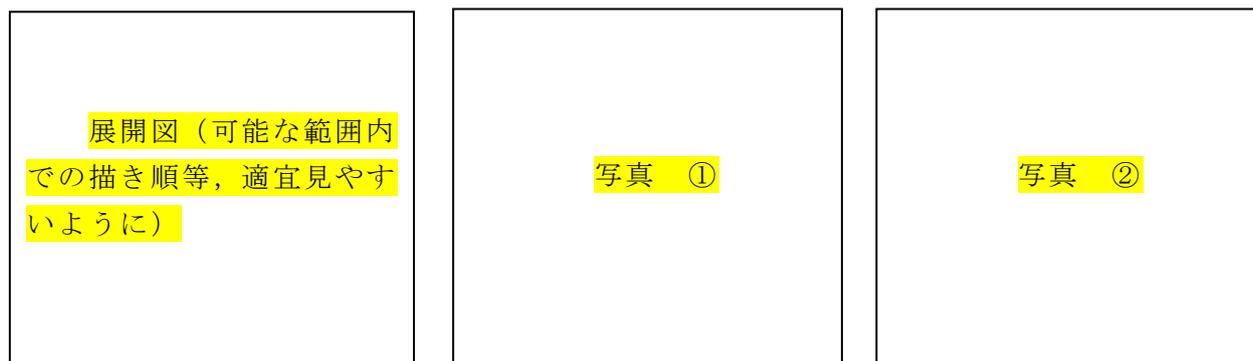
(展開図：**分**秒 裁断仮組立：**分**秒 接着仕上げ：**分**秒)

質問紙記入：**分**秒 終了時面接：**分**秒

自己採点：**点 他者採点：**点

*箱の写真は 1~2 アングルから全体がわかるように掲載する。図や写真はこのフォー

マットをベースに書きやすいように変更することは可。



2. 検査時の行動観察

箱づくり法を実施した時の行動について観察されたことを記載する。

箱づくり法の実施全体を通して観察された行動や、それぞれの期において観察された行動について記載し、それぞれの評点の得点についての説明を記載する。

例えば、被検者のつぶやき、自問自答、身体的な運動・動作など、言語表現については可能な限り要約することなくメモすることが大切である。

- (1) 導入期
- (2) 展開図作成期
- (3) 裁断・仮組立期
- (4) 接着・仕上げ期
- (5) 区切り・休憩期
- (6) 振り返り・確認期

3. 各プロフィールからみた被検者の特徴

それぞれのプロフィールから読み取れる被検者の特徴を記載する。

(1) 経過時間プロフィール

時間的要因の考察には、各工程での所要時間と時間の分配比に着目し、ある課題（工程）を達成する際のエネルギー配分の特徴が、時間配分に間接的に反映されていると考えながら考察する。何故時間が掛かったのか、時間が掛からなかったかを行動観察と関連付けながら推測する。

(2) 過程別遂行得点プロフィール

検査への導入、展開図作成、裁断仮組立、接着仕上、そして質問紙への記入と面接の各工程別にみたプロフィールの高低に注目する。但し、作業習慣については各期の課題遂行に共通する5項目を取り出しているため、構成的な作業遂行に伴う基本的な作業習慣の指標として参考にする。また、生活史・生活状況と関連して、安定したペース配分の維持が可能かどうか、箱づくり体験プロフィールにおける疲労感・緊張感と対比させて確認する必要がある。

(3) 機能別遂行得点プロフィール

前項までのプロフィールで気になった点を念頭に置きながら、プロフィールの右側（作品交流、出会い、二者交流、間合い、役割関係）は対人技能に関係した領域の機能であり、左側（イメージ着手、手順段取り、可逆的思考、課題集中、状況対

処)は作業遂行技能に関係した領域の機能だということを踏まえ、全体の特徴あるいはそれぞれの機能の下位項目を確認しつつ被検者の特徴を推測する。

(4) 箱づくり体験プロフィール

プロフィールの下位項目には、肯定的な体験や否定的な体験及び疲労感覚などの身体的な体験も含まれており、先ず全体としての高低について着目する。例えば、プロフィール全体が「メリハリのない」時には、自分の体験や情緒を振り返る内省機能が未分化あるいは曖昧化している可能性があるなど、全体の形と細部の高低に注意しながら、また必要に応じて集計用紙の下位項目を参照しながら、対人関係を持ちながらの課題遂行における主観的な体験内容の特徴を考察する。

特に、検者の行動観察と箱づくり体験プロフィールの結果の間に、違いがある場合には注意する必要がある。

V. まとめ

箱づくり法の結果及び成育歴及び現病歴などの情報をまとめ、対象者の作業遂行及び対人関係の特徴を、いくつかの項目ごとに根拠を示しながら記載する。

VI. 今後への提言など

V項に記載した内容を踏まえ、対象者へのフィードバック時に伝え易く、共有可能な今後の方向性を確認するための具体的な提案に重点をおいてまとめる。

VII. フィードバックの実施及びその後の経過

フィードバック時の対象者の反応及びその後の経過などについて記載する。

以上 (2021.08.01 作成)